

中 寛史 NAKA, Hiroshi
名古屋大学物質科学国際研究センター助教
Email address: h_naka@nagoya-u.jp



【専門】 有機化学、触媒化学

[学歴] 1980年6月1日 東京都町田市生まれ： 私立麻布高等学校卒業

2003年 東京大学薬学部卒業

2005年 東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了

2006年 Frie Universiteit Amsterdam (Prof. K. Lammertsma) 訪問学生

2008年 名古屋大学 博士(理学)

[職歴] 2005年 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2006年 東北大学大学院薬学研究科 助手

2008年 名古屋大学物質科学国際研究センター 助教

【プロジェクト、委員など】

野依フォーラム合同研究プロジェクトCo-PI (2008–14年)、野依フォーラム中核会員 (2009年–)

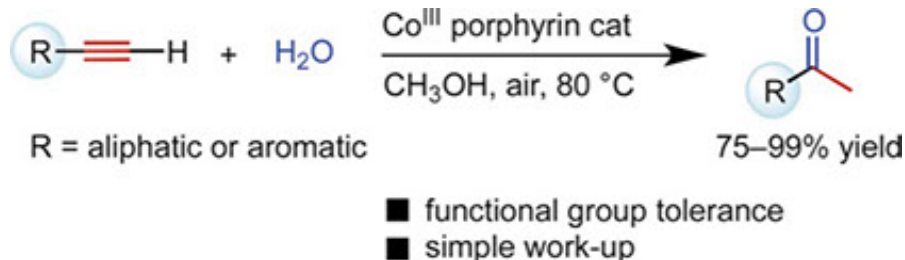
【受賞】 日本化学会 優秀講演賞 (2014年)、ACP Lectureship Award (Singapore, 2015年)

【趣味】 散策、音楽鑑賞

主な研究テーマと成果

1. 水を原料に使う触媒反応の設計と応用 (2013-)

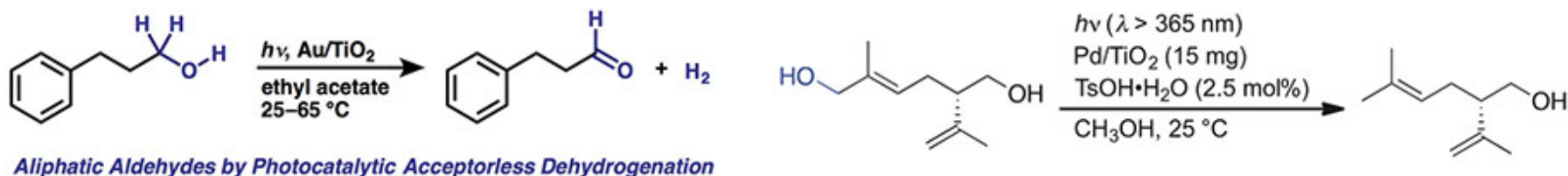
JACS 2013, 135, 50; *RSC Adv* 2015, 5, 12152; *CST* 2016, 6, 5801; *CPB* 2017, 65, 1000.



水は反応性が低い物質ですが、適切に触媒系を設計することで、効率的に水を有機物質と反応させることができることを示しました。

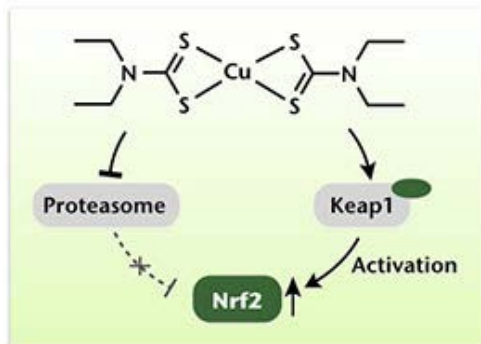
2. 光エネルギーを使う有機合成法の開発 (2013-)

CEJ 2013, 19, 9452; *CST* 2014, 4, 4093; *OL* 2015, 17, 2530; *CL* 2017, 46, 580; *CEJ* 2017, 23, 18032; *PAC* 2018, 90, 167.



光エネルギーとアルコールを原料として利用する、新しい合成化学の可能性を示しました。

3. 生体防御機能の解明にむけた金属錯体プローブの創出 (2016-)



JBIC 2016, 21, 263; *JTS* 2016, 41, 217; *JTS* 2016, 41, 225; *JTS* 2017, 42, 553.

金属錯体を利用して生体防御機構の解明を狙います。

左の銅ジチオカーバメート錯体は、生体防御因子であるメタロチオネインを、Nrf2の活性化など複数の経路を通して誘導することを明らかにしました。